公益社団法人
石川県言語聴覚士会

年　　報

2022年度　第５巻

Ishikawa
Speech-Language-Hearing
Therapist Association

目　　次

2022年度年報 発刊に寄せて　……　公益社団法人 石川県言語聴覚士会 会長　徳田　紀子

1．公益社団法人石川県言語聴覚士会の概要 …… 1

2．2022年度の主な事業一覧 …… 3

3．2023年度の主な事業・行事予定 …… 9

4．2022年度　研修会一覧 …… 10

1）研修部

援助的コミュニケーション入門研修会

2）学術部

①生涯学習プログラム専門講座

②第11回 石川県言語聴覚学術集会

③第20回 北陸言語聴覚学術集会（富山主催）

5．キャリアアップ支援事業 …… 16

6．県民向けイベント …… 22

1）言語聴覚の日　川柳コンテスト

2）県民公開講座 「ことばの専門家に聞いてみよう!　ことばの発達　子どもの育ち」

第1部　幼児期・学童期の言語発達コミュニケーションについて

第2部　特別支援教育について

3）小児発達相談

7．他団体との連携事業 …… 24

1）石川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡会研修会

2）石川JRAT活動報告

3）特別支援学校の医療等外部専門家との連携事業

8．失語症者向け意思疎通支援者養成講習会報告 …… 32

9．関連団体主催行事などへの参加活動 …… 33

1）公益社団法人石川県脳卒中リハビリテーション協会への講師派遣

2）石川県失語症友の会研修会・月例会での協力施設

3）金沢市フレイル予防事業

4）医療・介護・栄養のお仕事まるわかり事典2022　進学と体験の1dayフェア

5）金沢市健康づくりフェア

6）いしかわ介護フェスタ

石川県言語聴覚士会シンボルマーク（表紙）の意味

直接的には、中心の輪の部分が「口」「耳(鼓膜)」「脳」を、サイドの曲線部分が「声・音(音波)」を抽象化したデザインです。

さらに、もうひとつの意味として、中心の輪は「コミュニケーションのバリア」、曲線は「つながり」をイメージしています。

つまり、このマークは、「コミュニケーションの輪を広げ、多様な人生との絆を深めよう」「社会や自分の中のバリアを突き破り、共に生きていこう！」という私たちのメッセージを象徴しているのです。

2022 年度年報 発刊に寄せて

公益社団法人
石川県言語聴覚士会
会長　　徳田　紀子

2022年度、皆様はどのような１年を過ごされたでしょうか? この数年間は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って様々な場面で大きな変化を求められてきましたが、今では「withコロナ」の過ごし方がすっかり定着してきたように感じます。我慢していた趣味活動を再開したり、しばらく会っていなかった家族や友人とゆっくり過ごした方も多いのではないでしょうか？

さて2022年度の当会の活動について振り返ってみますと、例年行ってきた学術集会や研修会などはWeb開催とし、県外からも多くの方々に参加していただきました。「言語聴覚の日」のイベントは、会場で展示を行うと同時に川柳コンテストをWeb上で開催し、「いしかわ介護フェスタ」や「金沢市健康づくりフェア」「進学と体験の1dayフェア」にはブース出展をして、地域の方々にコミュニケーション障害や摂食嚥下障害そして言語聴覚士について知っていただく機会を設けることができました。２月に開催した県民公開講座では「ことばの専門家に聞いてみよう！ ことばの発達 子どもの育ち」をテーマに、言語聴覚士の中川信子氏よりご講演をいただき、一般の保護者の方や教育・福祉分野の専門家など、非常に多くの方々に参加していただきました。子どもの発達や特別支援教育に対する社会の関心は高く、小児分野の支援の充実は当会の喫緊の課題であると再確認しました。関連団体との活動についても、皆様のご支援をいただきながら継続して行うことができました。石川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡会や石川JRATなど関連団体と共同で行っている事業に関しては、研修会を開催したり新たな取り組みを企画するなど、当会のみでは到底手が届かないところまで歩みを共にさせていただけております。小さな会で会員数も少ないためできることは非常に微力ではありますが、これらの活動にも引き続き言語聴覚士ならではのエッセンスを注いでいきたいと思っております。

この１年間は「言語聴覚士とは何か? 何をするべきか? 何ができるのか?」を常に問われているように感じた年でした。小児の療育のみならず、失語症等の言語障害や加齢性難聴によるコミュニケーション障害など、言語聴覚士の支援を必要とする地域課題は非常に多く、これまで行ってきた事業を確実に継続しながら新しい出来事に対応していく難しさを強く感じております。

社会全体が新型コロナウイルス感染症との付き合い方が見えてきつつある今、この数年間制限されることが多かった「コミュニケーション」や「食べる・飲む」ことの楽しさを、障害の有無に関わらずみんなが実感できるように、私たち言語聴覚士だからこそできる視点とやり方で一つずつ事業に展開していきたいと思っております。今後とも何卒ご指導・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

2023 年 3 月吉日

１．公益社団法人石川県言語聴覚士会の概要

2023 年 3 月現在

沿　革：2000 年 4 月 9 日　　石川県言語聴覚士会設立
2012 年 4 月 22 日　一般社団法人石川県言語聴覚士会へ移行
2018 年 4 月 1 日　　公益社団法人石川県言語聴覚士会へ移行

事務局：

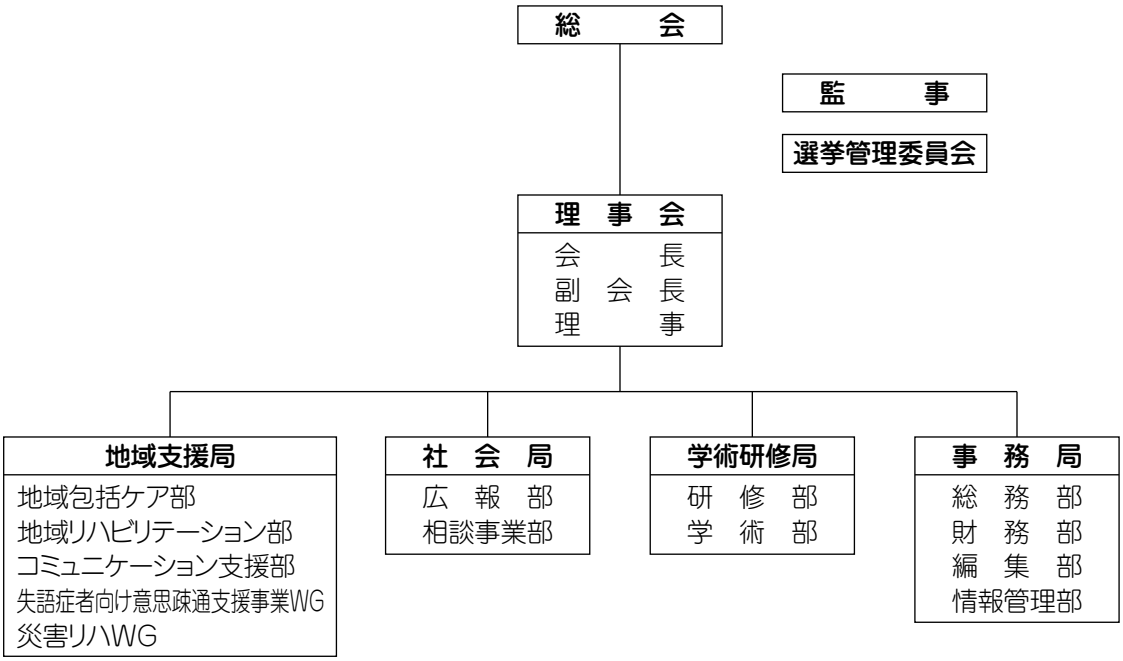
【 名称 】　公益社団法人石川県言語聴覚士会
【 住所 】　〒923-8551
石川県小松市八幡イ 12-7
やわたメディカルセンター　言語療法室内
【 TEL 】　0761-47-1212㈹
【E-mail】　info@st-ishikawa.com
【 URL 】　https：//st-ishikawa.com/

目　的：当法人は、県民の医療・介護・保健・福祉・教育の増進に寄与することを目的とし、言語聴覚士の技能及び資質の向上並びに言語聴覚療法及びサービスの普及・啓発・発展を図る。

事　業：

1．県民の医療・介護・保健・福祉・教育の増進及び生活支援に関する事業
2．言語聴覚療法の普及・発展に関する事業
3．言語聴覚士の職業倫理及び社会的責務に関する事業
4．言語聴覚士の知識及び技術の向上に関する事業
5．関連団体との連携及び協力に関する事業
6．会員の福利厚生に関する事業
7．前各号に定める事業に関連する事業

組織図：



役　員：　　任期：2021 年 5 月 23 日～2023 年 5 月総会

役職名			氏名	所属施設	役割
代表理事		会長	徳田　紀子	二ツ屋病院	会務の総括および渉外
理事		副会長	上野真由美	金沢西病院	会長補佐 渉外・地域担当
理事	学術研修局	副会長 学術研修局統括 研修部	藤田　徹	金沢こども医療福祉センター	会長補佐、症例検討 協会生涯学習基礎講座
理事	学術研修局	学術部	山﨑　憲子	金沢医科大学病院	協会生涯学習専門講座 学術集会、会員研修プログラム
理事	社会局	社会局統括 相談事業部	田嶋宏太郎	小松市民病院	関連団体との連携（講師派遣）
理事	社会局	広報部	塩本　将也	南ヶ丘病院	言語聴覚の日・介護フェスタ 広報活動
理事	地域支援局	地域支援局統括 地域リハ部	谷口　昌代	KKR北陸 訪問看護ステーション	地域リハ関係業務
理事	地域支援局	コミュニケーション支援部	田畑　美香	やわたメディカルセンター	失語症者向け意思疎通支援事業の推進 コミュニケーション障害についての啓蒙
理事	地域支援局	災害リハWG	金沢　一恵	かがやきクリニック	災害医療に関する知識と技術を有する STの育成、石川JRATへの参加
理事	事務局	編集部	筒井　桜	金沢西病院	ニュースレター 年報の編集・発行
理事	事務局	財務部	清水　聡子	独立行政法人 国立病院機構 金沢医療センター	収支管理
理事	事務局	情報管理部	木村　彩乃	浅ノ川総合病院	会員情報管理・ホームページ管理 職能に関する情報収集・発信
理事	事務局	総務部	薮越　文佳	公立能登総合病院	窓口業務・各種文書管理・総会準備 法人関係業務・会員の親睦交流など
監事			勝木　準 木下　浩美	芦城クリニック 石川療育センター	

会員数：合計 185 名　　（2023 年 3 月 31 日現在）

正会員		158 名		
賛助会員	個人	4 名		
賛助会員	団体	23団体	A会員	やわたメディカルセンター、理研産業株式会社
賛助会員	団体	23団体	B会員	株式会社アルバ、社会医療法人財団 董仙会 恵寿総合病院
賛助会員	団体	23団体	C会員	医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院、医療法人社団 慈豊会、大生食品工業株式会社、株式会社 フードケア、マルト株式会社 印刷事業部、バランス株式会社、ニュートリー株式会社、キッセイ薬品工業株式会社、株式会社 明治中部支社 北陸オフィス、株式会社 大塚製薬工場、ティーアンドケー株式会社、医療法人社団 浅ノ川 桜ヶ丘病院、独立行政法人 地域医療機能推進機構 金沢病院、公益社団法人 石川勤労者医療協会 城北病院、医療法人社団 博友会 金沢西病院、石川県済生会 金沢病院、医療法人社団 和楽仁 芳珠記念病院、株式会社 宮源、株式会社 gene
学生会員		0 名		

２．2022 年度の主な事業一覧

１．言語聴覚士の質の向上（知識・技術の習得）および社会的責務に関する事業

新人育成のための研修　※Web研修・Web会議にはZoomを使用

事　業　名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
新入会員オリエンテーション	藤田	5月22日	ハイブリッド研修 （Webと参集） 金沢市 ものづくり会館	JAS生涯学習プログラム・ISTA会員研修プログラム等の概要や研修を中心とした説明、情報交換等実施。 参加者8名（会場6名、Web2名）
日本言語聴覚士協会 生涯学習基礎講座	藤田	10月9日	Web研修	①参加者9名（会員6名、会員外3名） 講師1名（会員1名） ②参加者10名（会員6名、会員外4名） 講師1名（会員1名） ①「言語聴覚療法の動向」 ②「協会の役割役割と機構」
援助的コミュニケーション 入門研修	別所	10月1日	石川県立 中央病院	参加者4名（会員4名、会員外0名）　講師1名
症例検討会	諏訪	中止		発表希望者がいなかったため中止

技術向上のための研修

事　業　名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
診療報酬改定ミニセミナー	小森	5月22日	ハイブリッド研修 （Webと参集） 金沢市 ものづくり会館	参加者65名（会員65名、会員外0名）　講師1名 「2022年度の診療報酬改定について」
第20回北陸言語聴覚学術集会（富山開催）	山﨑	10月16日	Web研修	参加者98名（会員44名、会員外54名） 一般演題7題（会員1題、会員外6題）
地域リハリーダー養成 研修会	谷口 上野	中止		参加希望者、受講対象者少数のため中止
日本言語聴覚士協会 生涯学習専門講座	山﨑	8月20日	Web研修	参加者37名（会員17名、会員外20名：内JAS以外3名） 講師1名（会員外1名） 「高齢者における高次脳機能障害：症候の特徴と対応」
石川県言語聴覚学術集会	山﨑	11月27日	Web研修	参加者40名（会員26名、会員外14名） 発表者3名
日本言語聴覚士協会 生涯学習ポイント対象研修会	山﨑	11月27日	Web研修	参加者40名（会員26名、会員外14名） 講師1名（会員外1名） 「こころと脳は重ね描き」
会員研修プログラム　ベーシックコース「医療・介護・社会福祉制度」	藤田	10月30日	Web研修	参加者4名（会員4名、会員外0名） 講師1名（会員1名） 「医療・介護・福祉」
会員研修プログラム　ベーシックコース「機能性構音障害」	藤田	3月5日	Web研修	参加者14名（会員14名、会員外0名） 講師1名（会員1名） 「機能性構音障害」
会員研修プログラム　ベーシックコース「摂食嚥下障害」	藤田	3月21日	Web研修	参加者12名（会員12名、会員外0名） 講師1名（会員1名） 「摂食嚥下障害」
吃音相談・研修システム体制の運営（臨床施設調査、研修会、相談・紹介システム）	藤田 薮越	随時		吃音の臨床や支援等に関する研修及び 相談・紹介に関する情報提供等を実施

関係団体と合同で行う研修

事　業　名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
石川県訪問リハビリテーション実務者研修会	金沢	7月24日	Web研修	参加者28名（会員8名、会員外20名：PT7名、OT13名） 講師2名（会員1名、会員外1名） 「インクルーシブな在宅支援 ～伝えたい想いに寄り添え・支え・繋ぐ」 講演 ①「コミュニケーション支援 ～支援機器と事例を交えて～」 ②「失語症者とのコミュニケーションを中心としたコミュニケーション支援」
		12月10日	Web研修	参加者31名（会員8名、会員外23名：PT12名、OT11名） 講師2名（会員1名、会員外1名） 講演会 ①「今後の訪問リハの展望」・「令和6年の診療報酬・介護報酬の同時改定に向けた動向」 ②「在宅での食支援 ～セラピストには何が出来るか?～」
地域リハ塾 石川開催	竹内	中止		※新型コロナウイルス感染防止のため集合開催行えず中止
富山開催	竹内	中止		※中止
福井開催	竹内	2月18日	Web研修	参加者13名（会員4名、会員外9名：富山2名、福井7名） 「『いまいち伝わらない?』 ～他職種、家族に何をどう伝える?～」
石川県理学療法士会、 作業療法士会、 言語聴覚士会連絡会、 県リハビリテーションセンター 共催の研修会	谷口 上野	11月19日	Web及び 参集による ハイブリッド研修	市町事業に関わるリハビリテーション専門職育成研修① PTOTST共通導入研修 参加者34名（会員3名、会員外31名：PT13名、OT16名、他2名）　講師3名（会員外3名） 講演 「共生社会における地域リハビリテーションの展開」 「石川県における県リハビリテーション支援センターの紹介」 「住み慣れた地域で『したい生活』ができることを実現するために私たちにできること」
石川県理学療法士会、 作業療法士会、 言語聴覚士会連絡会 主催の研修会	上野 谷口	3月5日	Web及び 参集による ハイブリッド研修	市町事業に関わるリハビリテーション専門職育成研修② テーマ 「退院支援から市町・地域の介護予防・自立支援を知ろう～医療機関と地域それぞれの取り組み紹介」 参加者69名（会員7名、会員外62名：ST7名、PT15名、OT34名、他13名）
石川JRAT研修会	金沢	1月17日	Web研修	参加者52名（会員4名、会員外48名） 講演「避難所支援における活動の実態」
		2月25日		参加者38名（会員3名、会員外35名） 講演「オンラインHUG（避難所運営ゲーム）」
		3月14日		参加者41名（会員9名、会員外32名） 講演「石川JRATの活動報告」

他団体が開催する研修会への派遣

事　業　名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
失語症者向け意思疎通 支援者指導者養成研修	田畑	10月22日 23日	Web研修	会員3名　Web研修　3名修了
JIMTEF災害医療研修会	金沢	6月4日～ 7月10日	Web研修	会員3名　Web研修　3名修了
診療報酬改定説明会	小森	3月12日	Web研修	会員1名

助成

事　業　名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
キャリアアップ支援事業	藤田	通年		申請者7名（会員7名、会員外0名）　うち助成済6名 使用研修会名 臨床神経心理士資格試験、認定言語聴覚士（聴覚障害領域）、NPO法人日本インクルーシブ教育研究所第7期学習・発達支援員養成講座、 第14回JIMTEF災害医療研修ベーシックコース（3名）

２．県民への言語聴覚療法等の普及・啓発及び支援に関する事業

事　業　名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
「言語聴覚の日」のイベント	塩本	8月28日	学びの杜ののいち カレード オープンギャラリー	内　容：パネル展示・川柳コンテスト 来場者：30名 参加者：広報部員8名
川柳コンテスト	塩本	募集 7/1～8/6 投票 8/28～9/18	募集 県士会HP （Web上） 投票 Web上と 言語聴覚の日 イベント会場にて	川柳コンテストをメール等で募集し、Web上と言語聴覚の日のイベント会場とで投票を行った。 9月末にホームページ上で結果を報告した。 募集俳句：応募総数150句　掲載は50句 表彰：金賞1名　銀賞2名　銅賞3名　入選5名
「医療・介護・栄養のお仕事まるわかり事典2022 進学と体験の1dayフェア」へのブース出展	塩本	7月24日	金沢駅 もてなしドーム 地下イベント 広場	内　容：体験・パネル展示・相談 来場者：9名 相談者：9名 体験者：1名 参加者：広報部員3名
いしかわ介護フェスタへのブース出展	塩本	10月8日	石川県 産業展示館 3号館	内容：体験・パネル展示・相談 来場者：約60名 参加者：広報部員7名
県民公開講座 「ことばの専門家に聞いてみよう! ことばの発達 子どもの育ち」	谷口	2月5日	Web研修	参加者228名（会員32名、会員外190名、ST36名、PT2名、OT3名、Ns7名、保育士33名、教職員29名、社会福祉士6名、相談員13名、その他61名、無記名6名含む） 講師1名（会員外1名） 講演 ①幼児期・学童期の言語発達・コミュニケーションについて 『子どもの心とことばの育ち』 ②特別支援教育について 『自分らしく生きることと特別支援教育』

事　業　名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
小児教育相談会	田嶋	2月19日	金沢市 ものづくり会館	内　容：3～4歳児のことばの遅れ等の相談 相談者：9名（4家族） 参加者：ST4名
失語症者向け意思疎通 支援者養成事業 （石川県委託事業） ①失語症者向け意思疎通 　支援者養成講習会	田畑	8月7日･21日 9月4日･17日 10月2日･ 16日･29日 11月12日･20日 （計9回開催）	金沢市 ものづくり会館 能美市 防災センター	受講者16名 講師　延べ17名（ST15名、PT1名、県職員1名） スタッフ、チューター　延べ36名（ST35名、OT1名） 当事者講師　延べ30名 修了者　9名 （1）失語症とは何か （2）意思疎通支援者の役割、心構え及び倫理 （3）コミュニケーション支援 （4）外出同行支援 （5）身体介助 （6）その他、失語症者の意思疎通支援に必要な事項 失語症友の会会員当事者、会員以外の当事者の実習参加、意思疎通支援者の実習参加を行った。
②失語症カフェ	田畑	中止		＊新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止
③失語症者向け意思疎通 　支援者フォローアップ研修	田畑	2月12日	Web研修	失語症者向け意思疎通支援者のフォローアップ研修 講師2名（会員） 参加者　失語症者向け意思疎通支援者9名、 　　県職員1名、会員（ST）4名
会のホームページの刷新 管理運営	木村	通年		ホームページの更新、内容充実を図った。 メーリングリストの管理を行った。

自治体や他団体が開催する各種研修会・イベントへの派遣

石川県立看護大学講義
石川県失語症友の会例会
石川県脳卒中リハビリテーション協会　言語リハビリ教室
石川県脳卒中リハビリテーション協会話し方大会　中止
金沢市フレイル予防事業
特別支援学校の医療等外部専門家との連携事業　（珠洲、輪島、七尾、明和、ろう、小松、小松瀬領、錦城、盲）
加賀脳卒中地域連携協議会
2022年度学校教育連携担当者連絡協議会
石川県地域リハビリテーション推進検討会議
石川県在宅医療推進協議会

３．言語聴覚療法の研究・調査に関する事業

事　業　名	担当者	開催日	参加者及び内容
アンケート調査 VF･VE･訪問リハ	石原	6月2日～ 6月15日	毎年行っている外来VE、VF検査実施施設、訪問リハ実施施設一覧の更新を行った。
2022年度小児STの集い	藤田	8月10日	参加者14名（会員14名、会員外0名） テーマ：情報交換と今年度の取り組みについて Webにて実施

4．言語聴覚療法に関する刊行物の発刊に関する事業

事　業　名	担当者	発行日	内　　容
石川県言語聴覚士会年報の発行	筒井	5月23日	今年度の事業を年報としてまとめ、内容の充実化と読みやすい紙面づくりを図った。
ニュースレターの発行 （年4回）	筒井	6月、9月 12月、3月	年4回ニュースレターを作成し、発行した。

5．関係団体との連携及び協力に関する事業

事　業　名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
北陸地域リハST連絡会	竹内	2月18日	Web会議	今後の活動について協議した。
石川県訪問リハビリテーション連絡会	金沢	6月27日 10月3日 11月18日 12月10日	Web会議	訪問リハ・地域リーダー会議報告、訪問リハ実務者研修会の研修の日程や内容について協議した。
石川県理学療法士会 作業療法士会 言語聴覚士会連絡会	徳田 上野	5月20日 6月21日 7月19日 9月13日 10月7日 12月8日 2月2日 2月17日 3月27日	Web会議	県リハビリテーションセンターの協力を得て、地域ケア会議・介護予防事業に関する研修会や実践報告会の企画運営を行った。研修会修了者をリストアップし、市町事業への協力者登録を行った。
石川JRAT会議	金沢	4月21日 7月12日 8月26日 9月5日 9月28日 11月7日 1月17日 2月19日 2月25日 3月14日	Web会議	幹事会、小委員会が各々開催され、石川JRAT研修会の準備、県との協定に向けた策定作り、石川JRAT隊員の登録に向け、会長・副会長が各病院・施設への協力依頼を行った。 幹事会研修会（9月27日・10月11日）に参加した。 11月26日に『中部ブロックDMAT実働訓練』が行われた。県庁での調整本部訓練と同時に行われた、「石川県リハビリテーションセンターの活動本部訓練」へ調整本部（1名）・活動本部（2名）に会員が参加した。

6．福利厚生事業

事　業　名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
会員懇親会･交流会	南川	中止		＊新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止
企業展示	中村	5月22日	定時総会	3社の商品プレゼンテーションを実施した。
		11月27日	石川県 言語聴覚 学術集会	石川県言語聴覚学術集会にて、3社がオンラインプレゼンテーションを実施し、7社が抄録集の巻末付録での商品PR掲載を行った。
会員向け災害時安否確認の登録・模擬訓練	金沢	通年	金沢	令和5年3月31日現在　123名登録済 6月19日に発生した地震（震度6）に対して能登地区を中心に安否確認を実施した。 11月26日に災害時安否確認用LINEの模擬訓練を実施した。

7．組織の運営・管理

事　業　名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
定時社員総会	薮越	5月22日	ハイブリッド （Webと参集） 金沢市ものづくり会館	公益社団法人第5回定時社員総会として159名の総社員中出席社員（書面評決による者を含む）は104名（委任状79名） 第1～2号議案すべて承認
理事会	徳田	4月25日	Web会議	
		7月10日		
		9月11日		
		11月13日		
		1月15日		
		2月26日		
		3月12日		
局･WGミーティング	各理事	適宜		

３．2023 年度の主な事業・行事予定

月日（曜）	事業・行事
6月4日（日）	総会
6月	年報発行
6月	ニュースレター発行
7月	進学・仕事体験1dayフェア出展
8月27日（日）	言語聴覚の日イベント
9月	ニュースレター発行
9月	金沢市健康づくりフェア出展
10月 中旬	いしかわ介護フェスタ出展
12月	ニュースレター発行
3月	ニュースレター発行

＊キャリアアップ支援事業（通年）
＊会員向け災害時安否確認の登録（通年）

《失語症者向け意思疎通支援者養成事業関連》
日本言語聴覚士協会失語症者向け意思疎通
支援者指導者養成研修会
10月21日（土）･22日（日）

令和５年度石川県失語症者向け意思疎通
支援者養成講習会
（見学、チューター等募集予定）
8月6日（日）、8月20日（日）、9月3日（日）、
9月16日（土）、10月1日（日）、10月14日（土）、
10月29日（日）、11月11日（土）、11月26日（日）

日程未定
《研修部より》
症例検討会
吃音研修会
生涯学習基礎講座
「研究法序論」「臨床業務のあり方･進め方」
ベーシックコース
「失語症」「高次脳機能障害」「同職種連携」

《学術部より》
第21回北陸言語聴覚学術集会（福井主催）
第12回石川県言語聴覚学術集会
日本言語聴覚士協会生涯学習専門講座
・生涯学習ポイント対象研修会

《地域支援局より》
地域リハリーダー養成研修会
訪問リハビリテーション実務者研修会
県民公開講座
地域ST研修会

《災害リハWGより》
石川JRAT研修会

【理事会開催予定】
4月23日、6月4日、7月9日、9月10日、11月12日、
1月14日、2月25日、3月10日

４．石川県言語聴覚士会主催　2022 年度　研修会一覧

※Web開催にはZoomを使用

年月日(曜)	内　　容	講師・発表者	場　　所	担当
2022. 8.20（土）	生涯学習プログラム専門講座 「高齢者における高次脳機能障害： 症候の特徴と対応」	総合南東北病院 神経心理学研究部門科長 佐藤　睦子 氏	Web開催	学術部
2022. 10.1（土）	会員研修プログラムベーシックコース 「援助的コミュニケーション入門研修」	ものがたり訪問看護 ステーション 竹 内　満 会員	石川県立中央病院3階 リハビリテーション室	研修部
2022. 10.9（日）	生涯学習プログラム基礎講座 「言語聴覚療法の動向」 「協会の役割と機構」	恵寿総合病院 諏訪　美幸 会員 金沢こども医療福祉 センター 藤 田　徹 会員	Web開催	研修部
2022. 10.16（日）	第20回北陸言語学術集会 一般演題 「矯正右利き右損傷で生じた 視覚失認の一例」 特別講演 「嚥下障害者の食事の観察評価」	恵寿総合病院 荒尾　祐希 会員 国立国際医療研究 センター リハビリテーション科 診療科長 藤谷　順子 氏	Web開催	学術部
2022. 10.30（日）	会員研修プログラムベーシックコース 「医療・介護・社会福祉制度」	久藤総合病院 小森　賢治 会員	Web開催	研修部
2022. 11.27（日）	第11回石川県言語聴覚学術集会 1.「視床出血後特徴的な言語症状を呈した一例」 2.「左側頭葉梗塞により聴覚失認が疑われた一失語症例」 3.「気管切開患者の代用音声リハビリテーションに電気喉頭、カフ上発声、それらを併用する発話法を試みた症例」 特別講演 「こころと脳は重ね描き」	金沢医科大学病院 山本　雅代 会員 恵寿総合病院 藪下　千穂 会員 金沢大学附属病院 源田　亮二 会員 慶應義塾大学医学部 客員教授 鹿島　晴雄 氏	Web開催	学術部

年月日(曜)	内　　容	講師・発表者	場　　所	担当
2023. 2.5（日）	県民公開講座 　ことばの専門家に聞いてみよう！ 　ことばの発達　子どもの育ち 第1部　一般の方向け 　　幼児期・学童期の言語発達 　　コミュニケーションについて 　　「子どもの心とことばの育ち」 第2部　専門職向け 　　特別支援教育について 　　「自分らしく生きることと 　　特別支援教育」	子どもの発達支援を 考えるSTの会代表 　　中川　信子 氏	Web開催	地　域 支援局
2023. 2.18（土）	地域リハ塾 in ふくい 「いまいち伝わらない？」 　～他職種、家族に何をどう伝えるか？～	トゥモローズリハビリ テーショングループ 　　牧野　佳子 氏	Web開催	地　域 支援局
2023. 3.5（日）	会員研修プログラムベーシックコース 「機能性構音障害」	太田　朗子 会員	Web開催	研修部
2023. 3.21（火祝）	会員研修プログラムベーシックコース 「摂食嚥下障害」	城北病院 　　長原　幸穂 会員	Web開催	研修部

１）研修部　援助的コミュニケーション入門研修会

■「援助的コミュニケーション入門研修」開催報告

開催日時：2022年10月1日（土）13:00～17:00
開催場所：石川県立中央病院 3階リハビリテーション室
講　　師：ものがたり訪問看護ステーション　竹内　満 会員

セラピストに求められる能力のひとつに患者様の話をしっかりと聴けるコミュニケーションスキルが挙げられると思います。「患者様とより一層良好な関係を築き上げるためにはどうしたらいいだろう」「先輩だったら患者様にもっと良い言葉をかけることができただろう」「不安が強かったり言葉数が少ない患者様にはどのように接したらいいのだろう」と日々の臨床において感じることがあり、今回の会員研修プログラム「援助的コミュニケーション入門」に参加させていただきました。

具体的な事例・ロールプレイを通して、話を引き出す質問の仕方、相手の感情を受け止め言語化する方法、受容的な雰囲気を作り出しながら必要な情報を聴取するテクニックなどを教えていただきました。初めはロールプレイに少し戸惑いもありましたが、患者様とセラピストになりきることでより学びを深め、体得することができました。また、患者様を知ろうという気持ちを大事にし、置かれている状況やペースに合ったコミュニケーションを図ることの大切さを改めて感じました。

これからも患者様に真摯に向き合い寄り添えるよう今回の学びを生かし、今後の臨床に励みたいと思います。

金沢医科大学病院　柴田　真彩　ニュースレター2022.12

２）学術部　講演会・研修会

①　生涯学習プログラム専門講座

■「高齢者における高次脳機能障害：症候の特徴と対応」開催報告

開催日時：2022年8月20日（土）13:30～15:00
開催方法：Web（Zoom）開催
講　　師：佐藤　睦子 氏

今回、生涯学習プログラム専門講座「高齢者における高次脳機能障害：症候の特徴と対応」を受講させていただきました。

高齢者の定義についてや高齢者の機能低下の様態など、高次脳機能障害に対する内容だけでなく、高齢者に起こりうる問題や対応についても学ぶことができました。

現在の日本は、超高齢社会にあります。私の少ない臨床経験ではありますが、担当した患者さんは高齢の方がほとんどでした。中には認知症の方もいました。その際に、Ageism になっていたのではないかと感じました。検査結果を見て、認知機能低下を認めた場合は、ゆっくり話すことや声の大きさなどに気を付けようと思いました。しかし、実際の対応として簡単な文構造での会話や配慮が過剰な対応となり患者さんを不快な気持ちにさせていたのではないかと感じました。今後は、高齢者に対する配慮は必要ですが、それが過剰にならないように心掛けます。

私には臨床経験も知識もまだまだ足りません。これからは、今回の受講で学んだことを活かし、患者さんをよく観察し、機能訓練とともに、実生活に活かすリハビリテーションができるように頑張ります。

金沢脳神経外科病院　青木　大晟　ニュースレター2022.9

② 第11回 石川県言語聴覚学術集会抄録

■視床出血後特徴的な言語症状を呈した一例

○山本雅代[1)]、山﨑憲子[1)]
經田香織[1)]、松下　功[2)]
[1)]金沢医科大学病院
リハビリテーションセンター
[2)]金沢医科大学病院
リハビリテーション医学科

【はじめに】波多野らは、失語症に観察されることが稀な現象について、「無関連語性錯語」「記号素性錯語」を挙げている。今回、視床出血後に無関連錯語、記号素性錯語、記号素性錯書を認めた１例を経験したのでその障害機序について若干の考察を加え報告する。

【症例】80歳代、男性、右利き、妻と2人暮らし

【医学的診断名】左視床出血

【CT所見（Z+1日）】左視床に高吸収域。脳室穿破なし。脳萎縮あり。

【現病歴】令和X年Y月Z日自宅で飲酒していたところ右上下肢の脱力を自覚し当院に緊急搬送され即日入院となった。頭部CTで左視床に3.3mlの血腫を認め保存的加療が行われた。Z+2日よりST開始し、Z+42日に回復期病院へ転院となった。

【神経学的所見】軽度構音障害、軽度嚥下障害、Brs 右手指Ⅴ、右上肢Ⅲ、右下肢Ⅴ

【経過】Z＋35～37日に実施した再評価では理解面および表出面ともに改善を認めた。呼称は20/20。書字は文レベルまで可能となった。

【言語機能評価】Z+7～9日に標準失語症検査実施。理解面では、聴理解・読解は短文レベルまで可能。「口頭命令」は3/10で保続、物品の誤り、動作の付加あり。表出面では、流暢で音の歪みやプロソディ異常なし。呼称は12/20で喚語困難、新造語、意味性錯語、無関連錯語が認められた。書字は単語レベルより低下し、保続、文字想起困難、形態の整わない文字が認められ、訓練場面では記号素性錯書、無関連錯書が認められた。

【言語以外の神経心理学的所見】近時記憶低下、全般的注意機能低下、半側空間無視、前頭葉機能低下（保続、脱抑制）、情動障害（多幸症）、病識の低下を認めた。

【考察】無関連錯語について、稲富ら（2021）は言語処理過程の外部に位置する神経基盤の障害により生じると述べている。また、水田ら（1994）は語彙操作において、皮質下機能の障害により記号素性錯語が出現するとし、稲富ら（2021）は記号素性錯書について実在語の合成語である点が記号素性錯語と類似しているとしている。本例は、言語機能自体の障害である失語症とは機序が異なると考えた。

非失語性呼称障害について稲富ら（2021）は、情動障害、病態否認などの非失語性症候が随伴することが失語症との差異であるとしている。本例は無関連錯語や記号素性錯語といった失語症には稀な症状に加えて、情動障害や病態否認といった非失語性症候が随伴しており非失語性呼称障害であると考察した。

■左側頭葉梗塞により聴覚失認が疑われた一失語症例

○薮下千穂[1)]、木村聖子[1)]
諏訪美幸[1)]、荒尾祐希[1)]
真田はるか[1)]、薮越文佳[2)]
山本　楓[2)]、川北慎一郎[3)]
[1)]恵寿総合病院
リハビリテーションセンター　言語療法課
[2)]公立能登総合病院 リハビリテーション部
[3)]恵寿総合病院 リハビリテーション科

【はじめに】今回、左側頭葉梗塞により聴覚失認が疑われた一失語症例を経験したので報告する。

【症例】80代男性、矯正右利き。独居。発症前はADL、IADLともに自立。難聴あるが補聴器の装用経験は無し。

【現病歴】X日から失語症状を認め、X+1日A病院受診。左中大脳動脈領域の出血性梗塞を認め入院し保存的加療を行った。ADLは自立したが失語は残存したため、X+65日当院回復期病棟へ転院。PT・OT・ST開始。

【医学的診断名】心原性脳塞栓症

【神経学的所見】特に無し

【神経心理学的所見】失語症

【画像所見】X＋2日頭部MRIでは左上側頭回から中側頭回、角回に梗塞巣を認めた。

【評価】転院時：理解面は音声提示のみでは単語レベルから困難。文字理解では単語レベルは良好。表出面は、時折ジャーゴンが聞かれ、聞き手の推測を要した。意思表出は部分的に書字を使用することもあり、文字やジェスチャー併用で簡単なコミュニケーションは可能であった。現在：標準純音聴力検査では平均聴力レベルは気導で右耳47.5dB、左耳52.5dB。骨導で右耳40.0dB、左耳51.3dB。ABRでは右耳55dB、左耳65dBまでＶ波が出現した。SISI検査ではSISI score右耳15％、左耳10%と両耳ともSISI scoreは15％以下であった。環境音認知検査では8/10正答。口形呈示しながら大きめの声掛けでSLTA実施。正答率は、聴くでは単語100％、短文70%、口頭命令10％、仮名一文字50％。話すでは、呼称30％で誤りは新造語と音韻性錯語。単語復唱10％、短文復唱0％。音読は仮名単語40％、仮名一文字30％、漢字単語と短文0％。読むでは単語100％、短文80％、書字命令30％。書くでは、書字・書取は漢字単語80％、仮名単語0%。仮名一文字と短文の書取0％であった。短文の聴覚的理解は、読話の併用なしでは73％、読話の併用ありでは91％。訓練場面での理解は、STが口元を見せてゆっくり話すことにより、文字の併用無しで可能な場面が増えた。

【考察およびまとめ】左側頭葉梗塞により感覚性失語を呈した症例を経験した。転院時にみられた単語の聴覚的理解が困難なことは失語の影響と考えていたが、読話を併用すると聴覚的理解が改善したことから、聴覚失認の要素を併せ持っていると考えられた。

■気管切開患者の代用音声リハビリテーションに電気喉頭、カフ上発声、それらを併用する発話法を試みた症例

○源田亮二[1)]、佐藤康次[2)]
八幡徹太郎[3)]
[1)]金沢大学附属病院
リハビリテーション部
[2)]金沢大学附属病院
集中治療部
[3)]金沢大学附属病院
リハビリテーション科

【はじめに】気管切開下で人工呼吸器管理されている患者は、円滑な意思疎通が阻まれ、強いストレスを感じる。代替コミュニケーション手段（以下、AAC）には、50音表や書字等があるが、使用困難や時間を要する事があり、実用的でない場合がある。気管切開患者の代用音声には、電気式人工喉頭（Electrolarynx、以下EL）、カフ上発声法（Above cuff vocalization、以下ACV）、併用発話法（combination speech with EL and ACV.以下,CS法）がある。今回、ICU重症患者に、EL、ACV、CSを使用し、会話明瞭度への影響や使いやすさについて考察したので報告する。

【評価方法】発話の了解度は、会話明瞭度の9段階評価尺度を使用した。課題は「北風と太陽」の冒頭文の音読と、その場での会話を聴取し、筆者と看護師の2名で行った。

【症例】70歳代、男性。右肺癌部分切除術後に呼吸不全となり、術後11日にSTが処方された。術後14日挿管管理となり、術後16日に気管切開された。気切時の主なAACは口形で、書字は不十分であった。口腔機能は保たれ、術後19日のEL明瞭度は2、ACVは明瞭度3、CSは明瞭度1.5であった。経過で発声可能となり、カニューレ抜去に至った。代用音声の使用は15日であった。

【考察】症例はELとACVを単独で使用するよりも、併用時（CS）に明瞭度が向上した。EL

の発話音声は、破裂音などの無声子音の発音が困難であり、声質は単調でピッチコントロールが難しく、放射ノイズがあることが明瞭度を低下させている。ACVの発話音声は、子音や母音の発音が可能で、患者本来の声質と抑揚のある発話が可能であるが、送気流量が多いと喉頭の不快感が増加し不耐となりやすい。CSで明瞭度が向上したのは、低流量のACVによって破裂音などの無声子音の発音が可能となり、ELの有声音が加わったことで明瞭度が向上したと考えられる。

【結語】気管切開患者のコミュニケーション方法に各種の代用音声法を試みた。これらの方法は、カフを脱気せずに実施することができ簡便である。また、CSは会話明瞭度を向上させる可能性がある。

③ 第20回 北陸言語聴覚学術集会抄録

■矯正右利き右損傷で生じた視覚失認の一例

○荒尾祐希[1)]、諏訪美幸[1)]
木村聖子[1)]、真田はるか[1)]
薮下千穂[1)]、薮越文佳[2)]
川北慎一郎[3)]、東 壮太郎[4)]

[1)]恵寿総合病院
リハビリテーションセンター　言語療法課
[2)]公立能登総合病院 リハビリテーション部
[3)]恵寿総合病院 リハビリテーション科
[4)]恵寿総合病院 脳神経外科

【はじめに】矯正右利き右損傷により視覚失認を呈した症例を経験したので報告する。

【症例】】70代女性　矯正右利き（エジンバラ利き手テストで強度右利き）教育歴：中卒

【現病歴】X日、勤務中急に左半身のしびれ感と脱力が出現して動けなくなり救急車にてA病院に搬送され入院。X+40日、当院へ転院。ST開始。

【医学的診断名】脳梗塞

【頭部MRI所見（X日）】右後頭葉内側（舌状回、紡錘状回の一部）、右側頭葉内側（海馬傍回の一部）、右視床、右視放線、脳梁膨大部の梗塞。左後頭極下方の白質に陳旧性ラクナ梗塞。

【神経学的所見】左片麻痺、左同名半盲

【神経心理学的所見】視覚失認、相貌失認、地誌的見当識障害（街並失認、道順障害）

【眼科所見】矯正視力：右0.2 左0.6

【初期評価】発症初期、聴理解は2語文レベル、読解は困難。発話は流暢で時に語性錯語が出現。VPTA（X+24～32日）：絵・物品の呼称、状況図では重度の障害、写生・触覚呼称・聴覚呼称は軽度の障害を認めた。相貌認知、色彩認知、シンボル認知、地誌的見当識障害で重度の障害を認めた。左半側空間無視は認めなかった。

【経過】発症2ヵ月時点で日常会話レベルは音声言語でやり取り可能となった。視覚的雑音を加えての模写が良好、物品の聴覚的理解10/10正答・呼称10/10正答と改善を認めた。病棟生活においては、病室内の環境設定を行い身の回りのものの使用が可能であった。VPTA（X+145日）：物品の呼称は中等度の障害、写生・触覚呼称・聴覚呼称・状況図は全問正答となった。その他の項目では大きな改善を認めなかった。

【考察およびまとめ】本症例は発症初期模写も困難であったが、発症2ヵ月時点で視覚的雑音の有無に関わらず模写が良好となった。視覚失認のタイプについて太田は、線画の模写がある程度描け、網掛け線画の模写をすばやく描ける場合を連合型視覚失認と述べている。本例は発症初期に統合型視覚失認を呈していたものの、回復とともに連合型視覚失認に移行したものと考えられた。

５．キャリアアップ支援事業

県士会では昨年度より、「言語聴覚士の自己研鑽及び業務に役立つ資格取得等の支援を行う」ことを目的としたキャリアアップ支援事業を行っております。本事業は、対象となる会員に対して研修にかかる費用（受講費や交通費等）を助成するものとなっております。

本年度申請をいただき助成を行った研修は下記の６件です。

・『学習・発達支援員　第7期 学習・発達支援員養成講座2022』
（金沢医療センター　酒野　千枝 会員）
・『臨床神経心理士資格試験』（公立能登総合病院　薮越　文佳 会員）
・『第14回JIMTEF災害医療研修　ベーシックコース』（小松ソフィア病院　朴木紗希子 会員）
・『第14回JIMTEF災害医療研修　ベーシックコース』（浅ノ川総合病院　高山　香織 会員）
・『第14回JIMTEF災害医療研修　ベーシックコース』（二ツ屋病院　徳田　紀子 会員）
・『認定言語聴覚士（言語発達障害領域)』『認定言語聴覚士講習会（言語発達障害領域)』
（キッズルームパプリカ　山本　千敦 会員）

詳細につきましては県士会のホームページに掲載されております。皆様により一層ご活用していただくために、適宜見直しを行いながら次年度以降も運営して参ります。

学術研修局統括理事　金沢こども医療福祉センター　藤 田　徹

研修報告書①

所属	金沢医療センター	氏名	酒野　千枝
日時	2022 年 6 月 5 日 ～ 2022 年 12 月 4 日 フォローアップ研修　2023 年 2 月 5 日		
資格 研修会名	学習・発達支援員 第 7 期　学習・発達支援員養成講座 2022		
会場・場所	Web開催		
研修内容	ASDやADHD、LDといった発達障害に伴う困りごとを抱えている子ども達を、担任の先生と協力して支援する「学習・発達支援員」を養成する講座。「多様性への気づき」「脳機能から見た発達障害」「合理的配慮」といった 8 回のライブオンライン講座や、「子どもの行動理解と対応の仕方」「脳機能からみたワーキングメモリ」「読み書きが苦手な子ども達へのICT支援」等の動画視聴とレポート提出を通し、支援のための技術や考え方を学び、幼少期から成人期にかけての発達障害を正しく理解するための研修。		
成果 感想 今後の抱負	一連の講義受講や動画視聴を通し、発達障害の理解や対応について様々な観点から学ぶことが出来た。子どもの行動を変えるための応用行動分析、良いところに目を向けるリフレーミング、効果的な報酬や声掛け、保護者支援、望ましい行動を引き出すための環境調整、構造化、感覚統合、就労支援、ワーキングメモリとの関連、特別支援教育の法制度や仕組み、学習障害のアセスメント等々について知識を深めるとともに、LDや感覚過敏の疑似体験、ADHDの子どもと発達支援員とのやり取りのロールプレイ等を経験することで、これまでの臨床における自分の至らなさ、不適切な対応等に気づくことが出来た。一緒に研修に参加した、子どもに関わる様々な職業に就く全国の仲間たちと情報交換できたことも良い刺激となり、勉強を続ける原動力となった。情報が多岐に渡りまだ消化し切れていないが、今後の臨床を通して都度振り返りながら知識を自分のものとし、関わりを持つ子どもたちやその保護者、教育関係の方々に還元していきたい、と考えている。		

研修報告書②

所属	公立能登総合病院	氏名	薮越　文佳
日時	2022 年 5 月 29 日		
資格 研修会名	臨床神経心理士資格試験		
会場・場所	大阪大学　吹田キャンパス		
研修内容	臨床神経心理士は、日本神経心理学会と一般社団法人日本高次脳機能障害学会の二つの学会が共同で認定する資格であり、神経心理学・高次脳機能障害学に関して高い専門性を有し資格試験に合格した学会員に付与する学会認定資格です。 公認心理師が2019年から国家資格として動き出したことから、日本神経心理学会として、専門分野の近い日本高次脳機能障害学会と共同で、公認心理師、医師、言語聴覚士、作業療法士等、多職種にわたる専門性の高い認定資格制度を設けることが必要である旨が提案され、承認されました。両学会が共同で立ち上げた本制度は、2020年第1回・第2回講習会の開催によって運用が開始されました。「臨床神経心理士」は、2021年2月17日付で登録第6353294号として商標が登録されています。 今回第1回目の試験として5月29日に全国4会場にて同時に試験が実施されました。		
成果 感想 今後の抱負	今回の第1回目の資格試験では約400名の臨床神経心理士が誕生し、私も合格通知をいただきました。STの臨床分野でも高次脳機能障害は古くからSTが関わっている分野であります。私は日本言語聴覚士協会の認定言語聴覚士（失語・高次脳）でもあり、より専門性の高い臨床神経心理学に関する知識を有するという資格に恥じぬように知識を更新し、臨床に生かしていくこと、加えて研究的な視点を持って日々の臨床に向かうことを今後も続けていきたいと考えています。 また、今後はこのような認定資格が多く生まれ、言語聴覚士もそれらを取得しながら自らの知識を高め、対外的にも自分の技能を示していく時代になると考えられます。若いSTの方々にもその必要性を伝え、一緒に石川県の言語聴覚士の臨床の質を高めていければと思います。		

研修報告書③

所属	小松ソフィア病院	氏名	朴木 紗希子
日時	2022年6月4日～2022年7月10日		
資格 研修会名	第14回JIMTEF災害医療研修　ベーシックコース		
会場・場所	Web研修		
研修内容	いしかわJRATの幹事会のメンバーになったことに伴い、第14回JIMTEF災害医療研修ベーシックコースを受講させて頂くことになりました。研修は14コマの講義を順に視聴し、各コマ理解度確認テストを全問正解するまで取り組む必要があります。私はその中で、「4災害と栄養」の講義を取り上げたいと思います。 「4災害と栄養」では、災害時に知っておくべき7つのポイントとして ①水分が取れているか ②食事がしっかりとれているか（まずはエネルギー、次にたんぱく質、水溶性ビタミン）③避難所の食事環境を改善できるか ④食料の過不足に対応できるか ⑤炊き出しの提供や献立が適正に作成されているか ⑥安全に食べられているか ⑦身体を動かしているか、を挙げていました。特に①に関してはトイレの環境が悪いとトイレに行きたくないために水分を取らないようにする場合もあるため、飲み水の有無だけでなくトイレの環境やそこまでの動線などの評価も重要と言われていました。②では精神的ストレスから食欲が減退し、食料不足でなくても食事量が減ってしまうことが多いとのことでした。平時から低栄養状態の高齢者は多いので、さらなる低栄養や脱水を招きやすいと感じました。④では、乳児用の粉ミルク、腎臓病食や糖尿病食、嚥下障害者のための流動食など特別な配慮が必要な場合について触れられ、各自治体の平時からの備えが大切とのことでした。また、熊本地震の際には県と日本栄養士会が特殊栄養食品ステーションを作ったことなどが紹介されました。また、EMIS（広域災害救急医療情報システム）を活用することで、食料や水が不足している避難所をリアルタイムに知ることができるとのことでした。		
成果 感想 今後の抱負	せっかく避難所に避難して、命は助かってもしっかり水分や栄養が取れずに体調を崩してしまう、適切な食事が提供されずに誤嚥性肺炎を起こしてしまう、そういったことがないように、災害医療のチームは必要なのだと感じました。私が災害現場へ派遣されることがあれば、言語聴覚士として専門性を発揮できればと思います。今後も災害リハビリについて少しずつ学んでいきたいと思います。		

研修報告書④

所属	浅ノ川総合病院	氏名	高山　香織
日時	2022年6月4日～2022年7月10日（延長）		
資格 研修会名	第14回JIMTEF災害医療研修　ベーシックコース		
会場・場所	Web開催		
研修内容	1　災害医療概論 2　東日本大震災・東京電力福島第一原発事故に対する医療対応 3　避難所アセスメント 4　災害と栄養 5　災害と生活機能 6　災害時のメンタルヘルスケア 7　災害医療コーディネート 8　本部運営と記録 9　熊本市における救護班の調整と受援体験 10 被災者の医療人の円滑なコミュニケーションのために 11 スフィアプロジェクト 12 エコノミークラス症候群 13 災害対応の国際的潮流 14 災害と感染症 15 災害と口腔ケア 16 災害と透析 17 災害と高齢者　上記講義受講と理解確認テストあり		
成果 感想 今後の抱負	JIMTEF災害医療研修ベーシックコースを受講し、災害医療概論から災害と疾患まで多岐に渡り、様々なことを学びました。特に災害時の栄養の講義では、災害時に知っておくべき7つの栄養ポイントがあり、1. 水分が十分に取れているか、2. 食事がしっかり取れているか、3. 避難所の食事環境を改善できるか、4. 食料の過不足に対応できているか、5. 炊き出しの提供や献立が適正に作成されているか、6. 安全（衛生的）に食べられているか、7. 身体を動かしているか を把握し、そのポイントの中でSTは摂食嚥下機能障害のある方に対してどのような支援が出来るのか考えておく必要があると思いました。今後も発災時にSTとして何が出来るのか研修などを通して学び、いざという時に行動出来るようになりたいと思いました。		

研修報告書⑤

所属	二ツ屋病院	氏名	徳田　紀子
日時	2022年6月4日～2022年7月3日		
資格 研修会名	第14回JIMTEF災害医療研修　ベーシックコース修了		
会場・場所	Web開催		
研修内容	上記期間中に配信される講義について受講し、各回の最後に行われるテストを受け修了となった。 1 災害医療概論 2 東日本大震災東京電力福島第一原発事故に対する医療対応 3 避難所アセスメント 4 災害時の栄養 5 災害と生活機能 6 災害時のメンタルヘルスケア 7 災害医療コーディネート 8 本部運営と記録 9 熊本市における救護班の調整と受援経験 10 被災者と医療人の円滑なコミュニケーションのために 11 スフィアプロジェクト 12 エコノミークラス症候群 13 世界の災害医療の潮流 14 災害と感染症 15 災害と口腔ケア 16 災害と透析 17 災害と高齢者		
成果 感想 今後の抱負	災害が発生した時はDMATをはじめ様々な支援団体が活動をするが、その中でも災害リハチーム（JRAT）は、避難所等での要配慮者の生活し難さの解消や、生活不活発病の予防に対して十分に力を発揮できるチームであるという事が自覚できた。また他のチームと連携を取りながらJRATとしての機能を果たすためには、調整本部と活動本部の立ち上げ、指揮命令機能の明確化、情報の収集と整理と共有が不可欠であることを理解し、自分が石川JRATの一員として役割を果たせるようになるために、できる限りの訓練と研修参加を続けたいと思う。		

研修報告書⑥

所属	キッズルームパプリカ	氏名	山本　千敦
日時	2022 年 7 月 2 日 ～ 2022 年 8 月 7 日（計6日間）		
資格 研修会名	認定言語聴覚士（言語発達障害領域） 認定言語聴覚士講習会（言語発達障害領域）		
会場・場所	Web開催		
研修内容	【講義】 前言語期、語彙獲得期、構文獲得期、談話 文字言語・音韻発達、教科学習、脳・医学系 言語発達障害、注意欠如・多動性障害、知的障害、自閉症スペクトラム障害、 学習障害、脳性麻痺（コミュニケーション、AAC）グループ指導とSST 、 評価全般について・枠組み、評価（実例） 指導：〈S-S 法〉、インリアル、TEACCH・ABA 社会福祉・地域包括等 【症例検討】 【試験】		
成果 感想 今後の抱負	前言語期から談話のレベルまで、発達段階に沿って順に、各段階毎に細かく講義があり、文字や教科学習といった、言語・コミュニケーションの問題とつながりのある領域の話など、新しい知識も含め、包括的にお話を聞けたことで、知識のブラッシュアップが出来、また最新の研究などもお聞きすることが出来ました。さらに、講義の内容から各自が書籍を読んだりして学びを深めていけるようなお話でした。 TEACCHやABA、INREAL、<S-S法>など、実際の支援プログラムについても、実践の第一人者の先生方のお話を拝聴することが出来、自身の臨床を振り返り、考え方や実際のプログラムの立案、実施について考え直す良い機会になりました。 後半には各自症例報告もあり、他の受講者の皆さんの発表を聞き、ファシリテーターの先生方のコメントをいただきながら、自身の症例報告のまとめ方についても沢山振り返ることが出来ました。 今後は、引き続き、研修会に参加し新しい情報を得つつ、発表などでアウトプットをしていくことにも、積極的に取り組んでいきたいと思っています。		